

A. 共通問題

オリンピック憲章では、国際オリンピック委員会（IOC）の役割のひとつとして、「オリンピック競技大会の有益な遺産を、開催国と開催都市が引き継ぐよう奨励すること」が挙げられている。この文中の「有益な遺産」は positive legacy と英語で表記され、いわゆるオリンピック・レガシーとして、オリンピックの開催により社会に生み出される持続的な効果として捉えられており、そのレガシーは様々な分野にわたるとされている。

それでは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、どのようなレガシーが開催国や開催都市にもたらされるべきか、複数の観点からそれぞれ具体例を用いて答えなさい。

B. 選択問題

- 問題番号1 日本のスポーツ指導者養成において、プレーヤーズセンタードなコーチングで、プレーヤーが身につけることが期待される4つの要素（4C's）について、具体的な例を示しながら述べよ。
- 問題番号2 我が国では2016年に閣議決定された「日本再興戦略2016」において、2012年に5.5兆円であったスポーツ産業の市場規模を、2020年に10.9兆円、2025年には15.2兆円までに成長させる目標が掲げられた。この中でスポーツ庁と経済産業省では、我が国のスポーツ産業の活性化に向け、政策の方向性を5つ打ち出している。その5つの政策の方向性それぞれについて、具体例を示しながら答えなさい。
- 問題番号3 プライオメトリクストレーニングについて説明せよ。なお、スポーツ活動においてどのようなパフォーマンスの向上が期待できるか、また留意するポイントについても説明せよ。